

のテーマに興味のある人にはデータを提供するので、研究を続けていただければ幸いです。

あ と が き

最近、非常に感動して読んだ本がある。ジョン・サウザー著「フィンチの嘴」(早川書房刊)である。種の進化は何万年単位ではなく、ダーウィンのガラパゴス島でフィンチが驚異的に速く変異していると書いている。そして生物は自然や人為的な選択圧を受け多様な形で進化しているとしている。この報告を書いていると、小矢部川流域での消滅はジャコウアゲハにとっては何らかの選択圧によるものではないかと思ひめぐらす。河川工事に伴う自動車の車輪に付着してウマノスズクサ

の種が運搬され植生を拡大したがそれがどのようにジャコウアゲハに関わったかについては興味のあるところである。

参 考 文 献

- 富山県昆虫研究会編,1979. 富山県の昆虫.
富山県昆虫研究会編,1988. 富山県の昆虫類.
福田晴夫ほか,1972. 原色日本昆虫生態図鑑 ちょう編. 保育社.
福田晴夫ほか,1982. 原色日本蝶類生態図鑑 (I). 保育社.
西山 隆,1980. 栃木県の蝶とその生活 (その8), 月刊むし(116):12~17.

(1995年12月30日受理)

富山県のホンモンジゴケ生育地—III, 及び本種の日本海側における分布北限の訂正について

山岡正尾

939-05 富山市水橋中村

On the Distribution of Copper Moss *Scopelophila cataractae* (Mitt.) Broth. in Toyama Prefecture.

Masao Yamaoka
Mizuhashi-nakamura, Toyama City, 939-05

ホンモンジゴケ *Scopelophila cataractae* (Mitt.) Broth.の富山県内生育地については本誌にこれまで2回(山岡 1994a, 1995a)、合わせて13箇所を報告した。その後さらに調査範囲を広げて全県の大半を調べたが僅かに次の1箇所が新たに確認されたに過ぎなかった。このたびはそれを報告する。

若 宮 八 幡 社

婦負郡八尾町東新町の南部に連なる山麓地帯の山裾にある緩い崖の一部、その僅かな平坦地、標高135m 地点に建つ古い神社で、その境内林はスギを主としクルミやケヤキなど広葉樹の巨木から成る鬱閉した混成林である。ちなみに神社の位置はおよそ36° 32' 00" N., 137° 08' 31" E. である。長い参道を登ると手水舎、そして拝殿本殿がある。それらは銅板葺きで、いずれも緑青が美しい。これらのうち拝殿のみ、その屋根の北東面及び南西面を流れ落ちる雨垂れ下に本種が広く生育する。雨垂れは軒下に造られた側溝に落ちる。側溝とその脇の土間コンクリートが青く染まっている。跳ね上がった雨水が側溝わきの土を汚染しているものと思われ、そこの平坦地には本種の大きな団塊状に盛り上がり

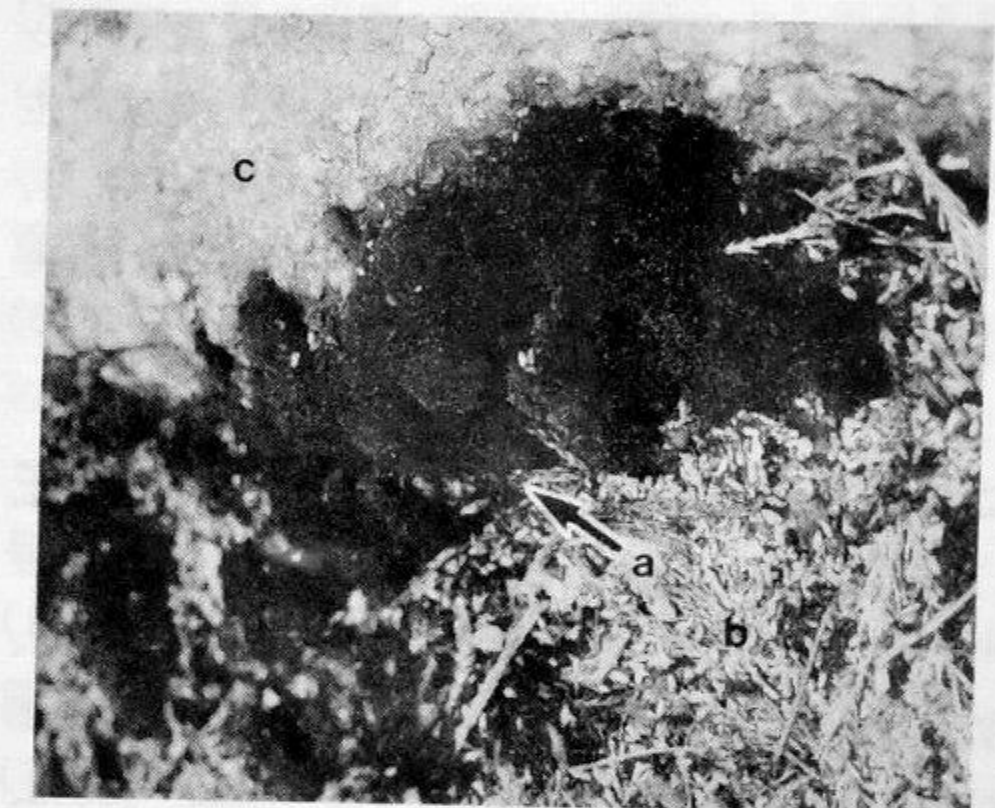


図1. 若宮八幡社のホンモンジゴケ 団塊状になった純群落(矢印a)、コケの上に降り積もったスギの雄花(b)、cは側溝わきのコンクリート土間の一部。

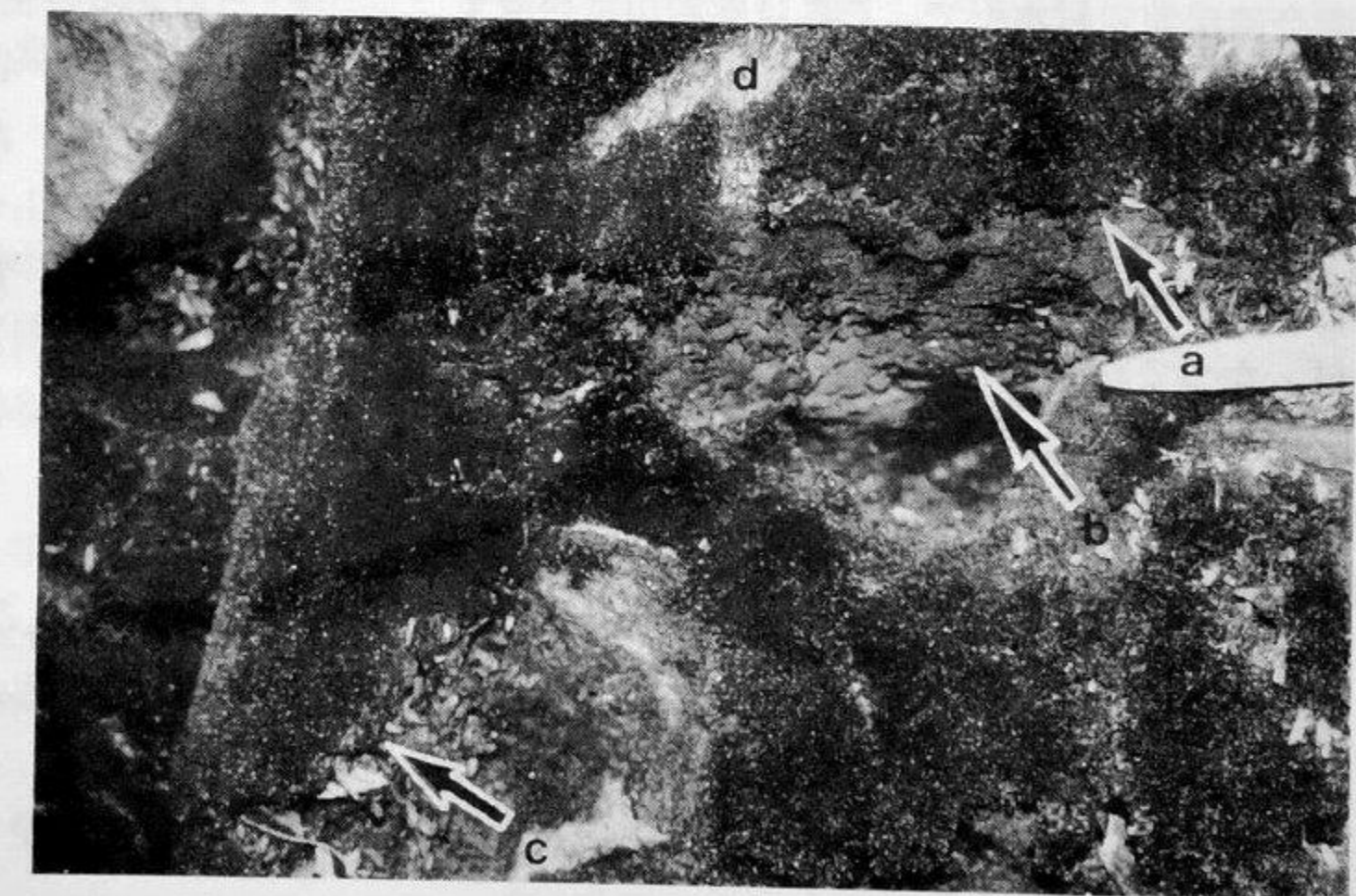


図2. 若宮八幡社のホンモンジゴケ 石垣の石の表面にカーペット状にはりついた群落(矢印a)、原糸体による層状構造の一部(矢印b)、太いひも状になって垂れ下がる(矢印c)、dはコケが剥落した石の表面。

富山県産の水生地衣類・苔類・蘚類の植物相

本多啓七

938 黒部市三日市3687

List of subemerged Lichens and Bryophytes in Toyama Prefecture.

Keishichi Honda
3687, Mikkaichi, Kurobe City, 938

はじめに

長らく植物生態調査を行って来たが、富山県下等植物の地衣類・苔類・蘚類の調査研究が今も不足している。時に黒部峡谷奥地の高山地域は調査が不充分であるのでこの老齢者が今までに調査した表題の記録をこれより掲載する。先ずこれら下等植物の特性を次にあげる。

1. 特 性

A. 地衣類の特性

- (1)地衣類は菌類と藻類よりなる複合植物である。
- (2)菌類は地衣体の大部分を占め、藻類に対し生活する場所と水分を提供する。
- (3)藻類は葉緑素を備え、光合成により完成された炭水化物を菌類に給与する。
- (4)生育環境は日当たりがよく乾燥する場所で特に垂直分布では局地や高山の低温下で繁茂する。
- (5)カワイワタケ属に高山溪流に育つ種がある。

B. 苔類の特性

- (1)配偶体は主に葉状体をなすが中間型もある。
- (2)各細胞内には油体があり葉緑体も多数含む。
- (3)大部分は匍匐(ほふく)又は斜上し葉は茎の左右に並ぶ。
- (4)孢子体は葉緑体がなく、柄とさく胞からなり、成熟直前に急伸し数日で腐朽する。
- (5)孢子体に孢子と弾糸があり後者は散布の役目をする。
- (6)場所は湿度が高く直射日光を受けない陰地に生育する。

C. 蘚類の特徴

- (1)配偶体には茎と葉があり茎葉体をなす。
- (2)葉は茎に対し放射状の多列につく傾向がある。
- (3)茎は一般に皮層が明瞭で中軸に中心束がある。
- (4)孢子体は強固で葉緑体を有し藓帽がある。
- (5)孢子体のさく胞内には孢子があり、さく歯は重要。
- (6)生育環境は苔類よりも乾燥性に強く、高緯度の寒冷地や高山帯にまで及ぶ傾向がある。

B, C. 苔類と蘚類の共通性

- (1)配偶体の精子移動には必ず水分が是非とも必要である。
- (2)配偶体と孢子体の世代交代が規則正しい。
- (3)繁殖は孢子による有性生殖と無性芽や不定芽、その他の無性生殖によって行われる。
- (4)仮根には維管束がなく概観は根に似るが違う。

2. 分 類

A. 地衣類の分類

スフェリア目-アナイボゴケ科-カワイワタケ属

- (1)クロウラカワイワタケ(イワタケモドキ)

Dermatocarpon moulinsii

立山称名川源流水域の溪流

B. 苔類の分類

ウロコゴケ目-イチョウウロコゴケ科-ヘリトリ

ウロコゴケ属

- (2)ヘリトリウロコゴケ

Gymnocolea inflata

立山弥陀ヶ原のガキ田の周縁

- (3)ヤマイチョウウロコゴケ

G. montana

た純群落が散在している(図1)。南西面の屋根下の側溝に集められた雨水は軒下から平坦地のU字溝を流れて、その先数mの所で境内の高さ約2mの石垣を落下する。その水の流れ下る部分では石の透き間や石の表面などで旺盛に成長し、厚いマット状あるいは垂れ下がって太いひも状になった群落が見られる(図2)。また貧弱ではあるが石垣の石の表面がやや下向きになったような部分には、本種の原系体によるといわれる特殊な層状構造(佐竹 1990)ができています。全般的に茎葉体の成長が良く、茎長は約1.5mmから、長いものでは25mmにも達している。無性芽は見当たらない。冬季には寒風にさらされて黄変枯死する生育地が他にあるが、ここでは平坦地にも石垣にも、そのようなものがない。春先まで積雪に覆われて寒冷な風衝に会わないからであろうか。

本種の日本海側における分布北限の訂正

筆者は、氷見市柳田の明覚寺に生育するホンモンジゴケについて(位置はおよそ36° 49' 36" N、137° 00' 06" E)、今のところ日本海側における本種の分布北限であろうといった(山岡 1994a、1994b、1995a、1995b)。しかし、この時点で既に福島県での生育が確認されていた(福島県植物誌編さん委員会・樋口ほか 1987)。採集地は同県南会津郡舘岩村水引で、ここは舘岩川に合流する湯岐川の上流の左岸地域である。舘岩川は伊南川となり只見川、阿賀野川となって日本海に注ぐから本種の生育地は日本海側、およそ37° 02' N、139° 07' E. である。なお樋口利雄氏の私信によれば、かつて桜井久一博士が*Merceyopsis tokioensis* Reimer. et Sak. (ホンモンジゴケ)と同定したもので標本には“Aug. 9. 1961”標集地は“舘岩村水引、ca 1100m. alt、石灰岩上”と

あるとのこと。言うなれば34年前に日本海側で本種の生育が確認されていたことになる。

従って、明覚寺の日本海側における本種の北限は誤りであったから訂正する。が最近さらに北の生育地、山形県米沢市の上杉神社で本種が確認された(久野 1995)ことを知った。米沢市は日本海に注ぐ最上川の上流であるから地形的には舘岩村同様日本海側である。従って今(1995年12月)のところ上杉神社が本種の日本海側分布北限と言えよう。ちなみに上杉神社の位置は、およそ37° 54' 20" N、140° 32' 14" E. である。

引用文献

- 福島県植物誌編さん委員会、樋口ほか、1987. 福島県植物誌. 481pp. 福島県植物誌編さん委員会. いわき市.
- 久野哲夫、1995. 銅ゴケ雑感. ホンモンジゴケを探る. ホンモンジゴケの生育地追加. 東京都杉並区立科学教育センター研究報告, (3)7-8.
- 佐竹研一、1990. ホンモンジゴケと銅(1). ホンモンジゴケの分布. 日本蘚苔類学会会報, 5 (4), 49-53.
- 山岡正尾、1994a. 富山県内のホンモンジゴケ生育地-I. 富山の生物, 33, 28-29.
- , 1994b. 富山県におけるホンモンジゴケ, その北限の生育地など. 三重コケの会ニュース, 17 (3-4), 26-29.
- , 1995a. 富山県内のホンモンジゴケ生育地-II. 富山の生物, 34, 38-39.
- , 1995b. 富山県におけるホンモンジゴケの分布II. 日本蘚苔類学会会報, 6 (7), 143-144.

(1995年12月10日受理)